

# 大阪大学図書館報

Vol. 3 No. 6 Nov. 1969

## 図書館における複写業務

情報の洪水といわれる今日、図書館の奉仕部門、とくに自然科学系において、参考業務、複写業務等は質的、量的に変わりつつある。個々の図書館で集められている資料だけでは、研究に必要な文献をカバーすることは殆んど不可能に近い。したがって、研究者は所属する図書館で入手できないものを、相互貸借を利用し、国内外を問わず他の図書館、研究機関に必要な文献を依頼しなければならない。同時に研究者の関心は“相互貸借の円滑化”ということにもなる。

また個々の図書館の複写サービスについてもいえることは、複写を利用することによって、従来のような現物の貸出が少しでも減少すれば、利用者相互にとっても大きな利益がもたらされるであろう。いつ誰が来ても必要な文献を提供できるというのが図書館の一つの使命であり、同時に貸出業務の変形として複写業務を考えた場合、ますますその重要性がうかがえる。

これらの事情を背景に、複写業務のあり方、質、速さ、料金等に検討を加えつつ、学内の分館、図書室の複写サービスの充実を計りつつある。

さて本学附属図書館本館・各分館・図書室では、それぞれ所属する利用者だけに利用できるゼロックス複写サービスを行っていたが、現在次の館で、所属の部局にかかわらず広く利用者に校費振替・私費で複写サービスを実施している。所属の図書館(室)を通して、直接行かれてもコピーを入手できるわけである。ただし校費振替を利用するときは、手続が必要なので、くわしくは、もよりの分館(室)できいて欲しい。

ゼロックス複写実施状況

	校費振替(25円)	私費 (A 30円 B 35円)
本館	○	○
中之島分館	○	○
工学部分館	※吹田地区に移転すれば実施の予定	
薬学部分館	○	○
産研分館	○	検討中
理学部図書室	○	○
基礎工図書室	○	—

○：実施している館(室)    A：学内者料金    B：学外者料金

※ 工学部の機械、応用化学、醗酵、電気系、応用物理、溶接、土木、建築、原子力の各学科図書室で校費振替を行っている。

## 閲覧用雑誌充実 35点を追加購入

—教養図書選択委員会—第1回—

44.9.20 (土) 11.00 a.m~2.00 p.m 於 本館々長室

- ① 本年度受入重点計画, 史学一般, 科学史, 通俗科学書, 美術(史), 小説(古典→個人全集)
- ② 本学教官著作図書は寄贈してもらう。
- ③ 学生希望図書は従来1人2冊以内に限っていたが, この枠は徹廢する。
- ④ 利用度が高く汚損のひどいものは更新する。
- ⑤ 前号(P. 30) 既報のとおり本館閲覧用雑誌が貧弱であるので, 学生の希望, 図書館職員の見解, 七大学図書館の実情を参考に次の雑誌を10月号(洋雑誌は'70年)から追加購入する。  
アトリエ, 美術手帳, 仏教芸術, 文芸, 中国, ダイヤモンド, ドクメンテーション研究, 映画芸術, 演劇会, 岳人, 現代の眼, 俳句研究, 判例時報, 法学セミナー, 自由, 情況, 科学史研究, 経済評論, 昆虫と自然, 理想, 世界政治資料, 世界週報, 新建築, 新日本文学, 思想, 思想の科学, 数理科学, 旅, 短歌研究, 展望, 前衛, (以上和雑誌31点)  
Life, Newsweek, Science, Time, (以上洋雑誌4点 計35点)

## 図書館職員による 図書推せん委員会 発足

教養図書選択委員会(41頁参照)に提出する図書館側の推せんリスト作成作業を, 掛のワクをこえて全館的に取り組もうという気運が盛り上がり, 去る10月6日(月)第1回の推せん委員会が開かれた。委員の構成は, 整理課長補佐, 受入掛長, 運用第一掛長および, 本館各掛からそれぞれ2~3名ずつの図書館職員からなり, 早速作業にとりかかった。

委員会の進め方は, とりあえず「出版ニュース」「図書新聞」「読書新聞」を全委員に回覧してチェックしてもらうほか, 各委員が, 新聞, 雑誌の広告・書評をスクリーニングして, 推せんすべき図書を受入掛長に通告する方法をとる。また, 本学の学生の構成からして, 自然科学系の図書の必要度が高いので, かって自然科学系図書館に在職したことのある3名の委員が, これらを重点的にチェックすることになった。

### 教養図書の推せんを

本館開架室におく教養図書を充実するために, 教職員, 学生のみなさんの推せんをお願いします。教科書的でない一般教養書の推せんを特に歓迎します。学生諸君の場合は二階閲覧室備付の希望図書箱へ, 教職員の場合は学部選出の教養図書選択委員会, 受入掛まで。

### 教官著書の寄贈を

指定図書その他で本学各図書館で購入している図書のなかに, 本学教官の著書が相当含まれています。図書館蔵書の充実, とくに学生用図書の充実のために, 教官著書の御寄贈をお願いします。寄贈された図書は, 有効に利用できるよう本誌「教官寄贈図書」に掲載します。

教官寄贈図書

本館

内藤四郎(教 講師)  
「ウムラウト」について 内藤四郎著 青山書店 昭44

中之島分館

河村洋二郎(歯 教授)  
歯科医のための医学必携—隣接医学の知識— 河村洋二郎等著 医歯薬出版 昭44

船越正也(歯 助教授)  
生理 生理概説 口控生理 船越正也著 医歯薬出版 昭44

工学部分館

佐藤邦彦(工 教授)  
溶接力学とその応用 渡辺正紀 共著 朝倉書店 昭44  
佐藤邦彦

室田明(工 教授)  
応用流体力学 室田明著 共立出版 昭44

——学生希望図書一本館——

昭和44年7～9月のリクエストで、配架済のもの

アリストテレス全集 全17巻		岩波書店
内藤湖南全集 全14巻		筑摩書房
天体観測シリーズ 全12巻	日本天文学会編	恒星社
日本武道全集 全5巻 別巻1	東京教育大学体育史研究室編	人物往来社
歴史と階級意識	G. ルカーチ著	
	城塚 登・古田 光共訳	白水社
権利濫用の研究	末川 博著	岩波書店
経済学辞典	大阪市立大学経済研究所編	〃
未来を語りつつけて	広島県教職員組合編	労働旬報社
人間月をゆく	毎日新聞社編	毎日新聞社
確率論の基礎概念	A. N. Kolmogoroff著	東京図書
	根本伸司・一条 洋共訳	
多様体入門	松島与三著	裳書房
ダイナミック空手	大山倍達著	日本貿易出版

## —国立七大学図書館協議会—

第43次（昭和44年度）国立七大学附属図書館協議会は、名古屋大学を会場として9月24日から26日まで開かれた。第1日の24日は協議会に先だって第2回部課長会議が持たれ、①文献複写について ②人事交流 ③昇格基準 ④主題別部会について ⑤機械化 ⑥図書の購入についての計画性などが討議された。出席者は文部省側から立松情報図書館課長、田保橋係長、各大学部課長であった。

上記会議は第2日以降、名大附属図書館の当番で開かれ、議題は次の順序で討議された。①第1回日米大学図書館会議のファイナル・コミュニケの取扱いについて ②附属図書館の性格・機能について ③部門別・地域別の分館制における組織上の諸問題 ④新しい大学像のもとにおける図書館のあり方 ⑤これからの大学図書館運営の態勢について ⑥将来の大学図書館における体制（職員構成など）について。特に④⑤の問題に関しては、それぞれの大学改革のなかで新しい図書館の方策を先づ検討して、相互に中間的な情報交換をすることに意見が一致した。

## —近畿地区業務機械化委員会—第7回—

44.9.2（火）10.00 a.m.—4.00 p.m. 於 IBM教育センター

大阪IBM公共企業営業部の天野量介氏を講師にして、午前中、「電子計算機の概略」と題してI/O putを中心としたTopicalな講話を聞いた。午後は、同氏からIBMシステム360モデル20（文部省が七大学プラス神戸・広島大各附属図書館に設置計画中）についての説明を聞いたのち、このモデルの稼動状況を現場見学した。見学終了後、このモデルについての評価をまじえて、図書館業務への適用の諸問題を討議した。次回は、10月上旬、同じIBM教育センターで、日本IBM本社から講師を招いて、国立国会図書館へ導入予定のMARC II Projectについて講演と討議を行なうことになった。

## —近畿地区業務機械化委員会—第8回—

44.10.22（水）10.30 a.m.~4.00 p.m. 於 大阪IBM

午前中は前回にひきつづき、大阪IBM天野量介を囲んでIBM Model 20 Submodel 5を図書館業務に導入した場合の問題点を討議した。その中で時間計算などの結果、コンピュータの導入は、業務の集中化を前提としなければ効率的でないことが再確認された。午後は、東京から、IBM公共企業営業部勝又藤右氏をむかえ、「図書館における情報検索システム」について、講話を開いた。そのあと、神戸大学副館長桂芳男氏から、10月18日、東京で開かれた図書館機械化調査研究班研究集会について報告があり、最後に次回は12月に、Model 20 Submodel 5を使って図書館業務を機械化した場合のフローチャートをレポーターが作成し検討することになった。レポーター：受入関係 阪大 雑誌関係 大市大 閲覧関係 京大

## —近畿地区外国文献購入調査委員会—第2回—

44.9.18 (木) 10.00 a.m.~3.30 p.m. 於 京大楽友会館

委員館7館(京大, 京織大, 阪大, 神大, 神商大, 奈医大, 和大)のほかに, 今回から大阪市大を加え8館となった。

各館の外国雑誌購入方法の詳細説明と質疑応答があり, その結果出てきた次のような問題点についての利害得失などを次回に討議することに決定した。(11月上旬 於奈良医大)

①予算年度区分と雑誌予約制度 ②欠号補充の責任主体 ③国内書店の性格 ④価格の立て方 ⑤前金払と後金払 ⑥直接取引の可能性 ⑦延納制度

このほか, 雑誌の選択から受入までの手順のモデル作成も検討することになった。

## —教養図書選択委員会—第2回—

44.10.21 (火) 1.30~3.30 p.m. 於 本館館長室

学生希望図書, 委員推せん図書, 図書館推せん図書の中から A: 購入決定, B: 現品を取寄せて検討, C: 保留, D: 不採用 にグループ分けした。今回のAのみで約15万円になり, 残額は41万円余となった。

## —第10回 理学部図書館委員会—

44.9.9. (火) 10.30 a.m.~12.00 於 館長室

①1970年度購入雑誌の更新, 新刊雑誌をできるだけ加え, 10月10日までに決定する。②7th Coll. Index Chem. Abst. 附属図書館基本参考図書整備費で支払われることになった。1970年春から刊行予定の8thはその時点で検討する。③学生図書委員(仮称)を設けることについて。④学生用図書・参考図書昨年度の実績で使用する。指定図書を含め図書の推薦を早く行なう。⑤新着雑誌展示場所を本館視聴覚室に移したことについて。

## —工学部図書館運営委員会—

44.10.8 (水) 1.00~2.00 p.m. 於 溶接工学科談話室

①本年度学生用図書購入について, 工学部600,000円および図書館約800,000円合計約1,400,000円により購入。予算使用区分については①300,000円を図書館にプールして教養的・共通の図書購入にあてる ②学科平均50,000円の範囲で指定書を選定 ③残金(約200,000円)で共通科目の指定書を購入することになった。④複写サービスの部局間の公開について, 以前から申し出のあった基礎工, 理学部より封鎖中のこともあって, 早期実現の強い要請が寄せられた。これ以上遷延することはできないので, 新図書館完成後複写サービスが可能になるまでの暫定的措置として, 各学科図書室においてサービスを公開することになった。ただし, 校費の振替申込みだけ。⑤報告事項として, 新図書館の最終図面が提出され, 近々着工される旨報告された。なお空調は1階全域と2階会議室・特別閲覧室の部分と3階の視聴覚ホール部分とが切換え式で装置が当初より設置されることになっている。

